

不安

不安は、折れていない証ではない。
まだ、折り切れていない側に残る。

不安は、弱さとして処理される。
あるいは、未熟さとして整理される。

だがそれは、
整えきれなかったものが、
内側に残っている状態でもある。

不安は、能力の不足ではない。
覚悟の欠如とも限らない。

むしろ、
安易に納得してしまうことを、
どこかで拒んでいる感覚に近い。

何も引き受けていなければ、
ここまで残る必要がない。

誠実であるということは、
位置を確定しきらないことでもある。

言葉が届いているか。
振る舞いに、わずかな歪みが混じっていないか。

その確認は、終わらない。

終わらせなかったものだけが、
静かに残り続ける。

不安は、進めなさとして現れる。
同時に、手放さなかった痕跡としても残る。

前に進めないことと、
何かを引き受けていること。

その両方が崩れずに並んでいるとき、
輪郭だけが浮く。

進めなかった理由は、
途中で捨てなかったものにある。

Edition — 存在の芯
別景：不安

著者：美学思想家 古川玲奈
発行：Raffiné
2026